

南青葉だより 陽だまり

第6号 発行日：2021年11月1日 発行者：南青葉台自治会長 古谷 桂子

119番の日（11月9日）

お世話になっています！ 救急車

河内長野市内でも、特に高齢化が進んでいる南青葉台ですが、救急搬送の出動件数は平均並みだそうです。しかしながら、最近の救急搬送の現状は、救急車をお願いしてから病院へ到着するまでの時間が伸び続けています。これは、軽傷や救急搬送が必要でない事例による出動が増え、救急活動がオーバーフロー気味となっているためです。

病院への受け入れをお願いする時には、血圧や心電図といった情報が必要で、家族の同伴又は家族の迎えの有無を確認するよう指示されたりすることもあります。お一人暮らしの方で、急に倒れ意識がなくなってしまった場合、緊急時の連絡先が救急隊にもわかるような工夫、例えば、連絡先のメモを冷蔵庫に貼るなどしておけば、救急隊から別居のご家族等に連絡することも可能です。

119番の日にあたり、あらためて緊急時の連絡方法等について、確認をしてみませんか。

（令和2年度）

	救急搬送件数		火事による出動件数
南青葉台	83件	人口の4.9%	1件
河内長野市全域	4917件	人口の4.7%	17件

救急車をお願いする時の手順

① 救急車を呼ぼうか？	救急センター（#7119）または、かかりつけ医に相談
② 救急車を呼んだ	保険証、診察券、お金、靴、服用している薬、お薬手帳 （乳幼児の場合は、母子手帳、おむつ、哺乳瓶、タオル）
③ お一人暮らしで可能な方は、身内に連絡しておく	

新型コロナウイルスの感染が疑われる場合や、現に
自宅療養中の方は
富田林保健所（0721-23-2681）
コロナ受診相談センター（06-7166-9911）



河内長野市消防本部警防課の
南民衛さんにお話を伺いました。

交通安全運動を実施しました



秋の全国交通安全運動に伴い、9月21日（火）から30日（木）の間、南青葉台中央の交差点で自治会役員、見守り隊の皆さんと共に交通安全運動を実施しました。河内長野市では161件（南青葉台1件：令和3年9月現在）の事故が発生し、高齢者の事故は60件に上ります。今後も交通ルールをしっかりと守りましょう。

臨時駐車場の草刈りをして頂きました



青色防犯パトロール隊（青パト）は、子どもたちが健やかに育ち、市民が安心して暮らせる「安全なまち河内長野」を確立するため、自主防犯活動に取り組んでいる地域のボランティア団体ですが、今回、ご好意により臨時駐車場の草刈りをして頂きました。

暑い中、大変ありがとうございました。

自治会の活動状況と予定

9月11日	臨時役員会
9月12日	定例役員会
9月16日	廃品回収日
10月10日	定例役員会
10月21日	廃品回収日
10月30日	ハロウィン
11月 3日	親子防災訓練
11月14日	定例役員会（予定）
11月18日	廃品回収日
12月12日	定例役員会（予定）
12月16日	廃品回収日

廃品回収上期実績報告

廃品回収の上期の実績は下表のとおりです。自治会の貴重な収入源となっており、引き続きご協力をお願いいたします。

種類	自治会収入
新聞・雑誌	¥33,520
ダンボール	¥7,635
牛乳パック	¥180
アルミ缶	¥83,550
計	¥124,885



編集後記

- 河内長野市では新型コロナワクチンの接種がすすみ、65歳以上の91%が2回目の接種を完了しています。また、緊急事態宣言も解除されたため、長らくご不便をお掛けしていた南青葉台会館の閉鎖を解除することとしました。引き続き、感染防止対策にご協力をお願いします。
- アンケート結果にあるように、自治会費の半額返金については、多くの班長さんにご負担をお掛けすることになってしまいました。改めてご協力ありがとうございました。

加賀田地区の民話 第6話

今回は、昔の年中行事を、ご紹介いたします。

「亥(い)の子(こ) 十月な、神無月(かんなづき) (昔の10月の呼び名) の亥(い)の日が亥の子やちゅうたな。亥の子は百姓の神さんやゆうてな、イノコロボタモチをこしらえておまつりしましたな。」

「亥の子 わしら小さい時、よう亥の子つきちゅうて、みんなでそろってついて歩きましたらな、どこの家かて一銭か二銭くれましたわ。それから分けてな、貰いましたわ。あれな、亥の子、亥の子、亥の子の晩に重箱拾うて 中ア開けて見れば ほこほこ饅頭いったった(入っていた) ちゅうてな、亥の子づきして歩きましたわ。」

「加賀田地区の民話」市教育委員会発行より要約

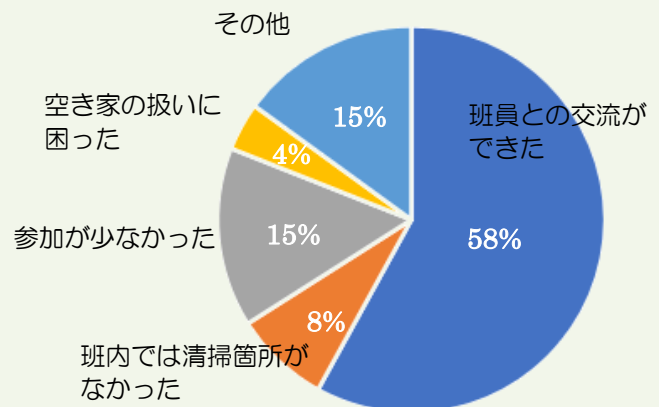
○注 亥(い)の子(こ)は、旧暦10月(亥の月)の最初の亥の日の亥の刻に行われる年中行事で、亥の子の祝い、亥の子祭りととも。主に西日本でみられる。行事の内容は、亥の子餅を作って食べ万病除去・子孫繁栄を祈る、子どもたちが地区の家の前で地面を搗(つ)いて回る。今年の亥の子は、11月11日(木)21時~23時です。ちなみに、亥の子餅とはその年に収穫された大豆・小豆・ささげ・ごま・栗・柿・糖(あめ)の七種の粉を新米に入れて作っていました。現在、10月から11月にかけて和菓子店に並ぶそうです。

アンケート(班長さん対象)から見る南青葉台③

令和2年度の48名の班長さんに、「一年を振り返ってアンケート」に、お答えしていただきました。前号に引続きご紹介します。

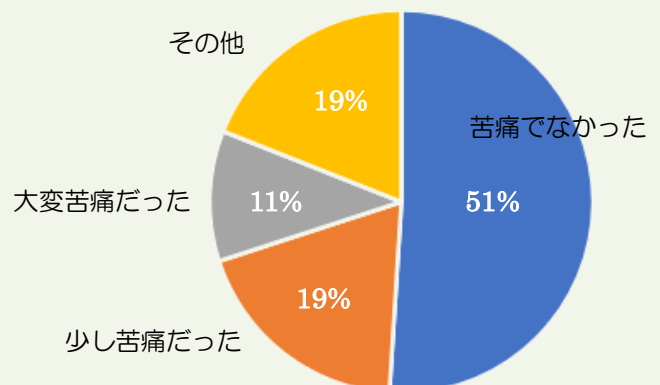
【年末一斉清掃について】

班員や他の班との交流・助け合いが出来て、有意義な時間を過ごされた方が多かった反面、不参加者の固定化や前日の準備、当日のスケジュールの徹底などに課題が残りました。



【自治会費の半額返金について】

現金を預かることに責任を感じながらも、喜んでくださる班員のお顔に救われつつ、連絡がつかない留守宅には、何度も足を運んでくださいました。一方で、班長に負担をかけてしまうので、返金しなくても良かったのでは、来年度の繰越金にすれば良かったのでは、とのご意見も頂きました。



今回は、「一年間の自治会活動についての想い」をご紹介します。

～ 青葉台のお宝さん ⑤ ～

7月10日に大阪狭山市コミュニティーセンターで開催された、南青葉台在住の荒木さんの講演会「シベリア抑留を生きのびて」に参加させていただきました。

迫力のある力強いお声でお話をされ、会場も超満員で来場者からの質問にも熱心に答えられていました。

「シベリア抑留の体験を語り継ぐ」 シベリア遺骨収集 13回

荒木 正則 さん (97歳)

- ◎ 20歳で入隊、満州とソ連との国境守備隊に配属
- ◎ 終戦後、ソ連の収容所へ移送
- ◎ 第2シベリア鉄道建設工事に従事
- ◎ 昭和23年10月にナホトカより舞鶴港に上陸し帰国
- ◎ 定年退職後、シベリア墓参5回、シベリア遺骨収集92歳までに13回参加
- ◎ 新聞や雑誌、テレビなどで荒木氏のシベリア抑留体験が4日間連載・放送
- ◎ キックス、福祉センター、小学校、中学校、公民館、自治会、歴史博物館、靖国神社など各地で講演85回を超える



荒木さんは、長らく抑留の話をする事はなかったが、退職後に「あの悲劇を風化させてはいけない」との思いから自らDVDを制作し、各地で85回以上の講演会を開催され、過酷な体験を語り継いでいらっしゃいます。またシベリアの地に放置されたままの戦友の亡がらを捜すため、13回にわたってシベリア遺骨収集団に参加されてきました。

終戦後、ソ連軍が満州に侵攻、荒木さんは250キロを徒歩で移動後、シベリアに強制移送され、約3年間、鉄道建設工事に従事させられました。零下60度の中で森林伐採などの労働が続き、仲間が次々と倒れ、飢えと寒さと病気や事故で亡くなりました。黙ってトイレに行こうとただけで不審者と思われて射殺されるような状態だったため、荒木さんが最初に覚えたロシア語は「ウボールヌイ（便所）」という言葉でした。食事は一切れの黒パンと一杯の水のようなスープのみでした。また、風呂は1～2か月に1回しか入ることが許されなかったそうです。

荒木さんが制作したDVDも上演され、爆弾を抱えてソ連軍の戦車の下にもぐりこむ姿や、やせ細った体で強制労働する姿も映し出されました。また、講演会場にはたくさんの資料や写真が掲げられていて、来場者が熱心に見入っていらっしゃいました。

高齢などの理由で語り部も年々減少してきており、歴史の風化でシベリアの苦難の歴史も忘れられてきていることなどを考え、荒木さんは、「命の続く限り、これからも語り続けます。」と力強く講演されました。



遺骨収集



産経新聞 (令和3年8月14日)



講演会